



2019年ゴルフ規則 よくある質問

2019.4.16 更新

この「よくある質問」では2019年ゴルフ規則に関してルールセミナー等で特にご質問の多かった事例を簡単にご説明しています。

- この資料は必要に応じて更新される場合があります。
- (解釈 14.2b(2)/1)という表記はオフィシャルガイドに掲載されている解釈の番号を示しています。オフィシャルガイドはJGA ホームページで閲覧できます。
- (2019年ゴルフ規則動画)はJGA ホームページで閲覧できます。
- 各事例の回答には適用条項を記していますので、詳細は規則の規定をご確認下さい。

距離計測機器①

Q 2点間の距離以外(例えば高低差)を計測できる機能を持つ機器を使用することはできますか?

A 高低差等を計測する機能が機器に付いているだけでは規則違反とはなりません。そのような規則で認められない計測を行った時点で罰を受けることとなります(規則 4.3)。

距離計測機器②

Q 距離計測機器を他のプレーヤーから借りることはできますか?

A できます。距離計測機器の貸し借りをすることは規則違反ではありません(規則 4.3)。

距離計測機器③

Q 2点間の距離の情報を他のプレーヤーに聞いたり、教えたりしても良いですか?

A 2点間の距離の情報はアドバイスではないので、その情報を聞いたり、教えたりしても規則違反とはなりません(定義「アドバイス」)。

球を動かす

Q 練習スイングをしていたら、クラブヘッドが球に当たってしまい、偶然に球を動かしてしまいました。この場合の罰は？

A プレーヤーは球をストロークする意思がないのでストロークを行ったことにはなりません。プレーヤーは自分のインプレーの球を偶然に動かしたことになります。

球のあった場所がパッティンググリーン以外の場所であった場合、1 罰打を加え、その球をリプレイスしなければなりません(規則 9.4)。球のあった場所がパッティンググリーン上であった場合、罰なしに、その球をリプレイスしなければなりません(規則 13.1d)。(追加)

バンカーの上の壁に球がくい込む

Q 図のバンカーの上の壁にくい込んでいる球はバンカー内の球ではないので、ジェネラルエリアの地面にくい込んでいる球となります。この場合、規則 16.3 に基づいて罰なしの救済を受けることができますが、球の直後に基点を決めることができないし、また基点よりホールに近づかないところにジェネラルエリアがない場合、事実上、救済エリアがどこにもありません。この場合、どのように処置をするべきでしょうか？



A 罰なしに救済を受けることができる場合でも、規則に基づく救済エリアがない場合は、その罰なしの救済を受けることはできません。その場合、プレーヤーはあるがままの状態プレーするか、罰ありの救済(アンプレヤブルの処置)をとるしかありません(類似解釈 14.2e/1)。

バンカーの上の壁や法面が急な傾斜になっていて、救済エリアを決めることが困難、または不可能な地形の場合、委員会はローカルルールでバンカーの上の壁、または法面に球がくい込んだ場合には救済を認めない旨のローカルルールを制定することができます。

旗竿をホールに立てたままプレーする①

Q 最初のパットで旗竿を立てたままプレーした場合、ホールアウトするまで、旗竿を立てたままにしてプレーをしなければなりませんか？

A そのような規則はありません。旗竿についてプレーヤーの選択肢は3つです。

- ① 旗竿をホールから取り除いてプレーする。
- ② 旗竿をホールに立てたままプレーする。
- ③ 旗竿に人を付き添わせてプレーする。

プレーヤーはストロークの都度、いずれかを選択することができます。例えば、最初のパットでは、旗竿をホールから取り除いてプレーし、セカンドパットでは、旗竿をホールに立ててプレーすることができます(規則 13.2a, b)。

旗竿をホールに立てたままプレーする②

Q 旗竿をホールに立てたままプレーすることにしました。パットした球が動いている間に、その球が当たりそうな旗竿を取り除くことはできますか？

A できません。その球の動きに影響する場合に旗竿を故意に取り除くことはできません(規則 13.2a)。

旗竿に人を付き添わせてからプレーする

Q プレーヤーは自分のキャディーに旗竿に付き添ってもらってからパットしたところ、そのキャディーが故意に旗竿を抜かず、動いている球がその旗竿に当たりました。この場合の裁定は？

A キャディーは故意に球の方向を変えた、または止めたので規則 13.2b(2)に基づきプレーヤーは一般の罰を受けます。プレーヤーは規則 11.2c(2)に基づいてそのストロークを取り消して再プレーをしなければなりません。(修正)

救済エリアのサイズの決定①

Q 救済エリアのサイズを決める 1 クラブレンジス、または 2 クラブレンジスはパター以外の最も長いクラブとなりますが、救済エリアを決めるときにその最も長いクラブを必ず持ってきて計測しなければなりませんか？

A 救済エリアのクラブレンジスはパター以外の最も長いクラブの長さとなりますが、必ず、その最も長いクラブを地面に置いて計測しなければならないわけではありません。クラブを置かずに推定したり、短いクラブを使って、最も長いクラブの長さを推定したりしても構いません。

ただし、次の 2 つの事を満たす必要があります。

- ① 最も長いクラブで決めた場合の救済エリアの範囲内にドロップした球が落ちること。
 - ② 最も長いクラブで決めた場合の救済エリアの範囲内にドロップした球が止まること。
- (規則 14.3b,c 2019 ゴルフ規則動画参照)

救済エリアのサイズの決定②

Q 短いクラブを使ってクラブレンジスを測って救済エリアのサイズを推定して球をドロップしました。ドロップした球が短いクラブの長さの外に出たので拾い上げました。この場合の罰は？

A 短いクラブでクラブレンジスを推定したとしてもそのプレーヤーの救済エリアのサイズはパター以外の最も長いクラブの長さとなります。その本来の救済エリアの中に球が止まっていれば、処置は完了し、球はインプレーになっています。したがって、球がその救済エリアの中に止まっているのに、その球を拾い上げた場合は 1 罰打を受け、リプレーをしなければなりません(規則 9.4b)。

間違った方法でドロップした球をプレー

Q 間違った方法でドロップした球をプレーした場合の罰は？

A 間違った方法でドロップしても、その球が救済エリアに落ちて、救済エリア内に止まっていた場合、罰は間違った方法でドロップした球をプレーしたことに対する 1 罰打となります(規則 14.3b)。

間違った方法でドロップした球が救済エリアの外に止まり、その球をプレーした場合は一般の罰を受けます。

ドロップしなければならないのに、リプレースしてプレー

Q ドロップしなければならないのにリプレースしてプレーした場合の罰は?

A 一般の罰を受けます(規則 14.3b)

リプレースしなければならないのに、ドロップしてプレー

Q リプレースしなければならないのに、ドロップしてプレーした場合の罰は?

A プレーした場所が正しい場合は、間違った方法でリプレースしたことに對する 1 罰打を受けます。一方、プレーした場所が正しくない場合は一般の罰を受けます(解釈 14.2b(2)/1)。

ドロップした球が地面に落ちる前に自分に当たる

Q ドロップした球が地面に落ちる前に自分に当たってしまった場合の処置は?

A 罰なしに、再びドロップをしなければなりません(規則 14.3b)。

ドロップした球が地面に落ちた後に自分に当たる

Q ドロップした球が地面に落ちた後、偶然に自分に当たった場合の処置は?

A 罰はなく、その球が救済エリア内に止まった場合、そこから球をプレーしなければなりません(規則 14.3b)。

ローカルルールとは?

Q ローカルルールはどのようなものであっても制定することができますか?

A ローカルルールとは委員会が一般的なプレーや特定の競技会のために採用する規則の修正や追加規則のことで、ローカルルールにはゴルフ規則と同じステータスがあります。ローカルルールはどのようなものであっても委員会が決定すれば採用できるというのではなく、オフィシャルガイドのセクション 8 に収録されている原則と矛盾するようなローカルルールを制定することはできません。(追加)

OB、紛失の場合、2 罰打でドロップするローカルルール

Q 球がアウトオブバウンズとなったり、紛失となった場合に 1 罰打で最後にプレーした所に戻ってプレーするのではなく、2 罰打で前方からプレーできるというローカルルールは競技で使用するべきですか？

A このローカルルールは競技での採用は勧められていません。余暇でゴルフを楽しんだり、内々のコンペ等で使用することが勧められます。なお、このローカルルールのひな型はオフィシャルガイドのローカルルールひな型 E-5 に掲載しています。

(オフィシャルガイドには図説も掲載されています)

